



LIXIL

NEWSLETTER
つくる、つなぐ、とどける

リクシルをつくる人 vol.7

株式会社LIXILは、世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。

このニュースレターでは、LIXILの高品質な製品の礎となる日本のものづくりに焦点をあてその取り組みをご紹介します。

技術

高付加価値商品のリーンスタートアップを技術で実現する匠の集団
サッシを製造する伊吹工場（岐阜県）の事例を紹介

伊吹工場は、他の工場とは一線を画す、「新商品立ち上げ工場」としての役割を担っている。開口部のハイエンドブランド「NODEA」で展開している窓にも、伊吹工場の高い技術が使われている。

伊吹工場の武器は、長年ビル事業で培ってきた「汎用技術」だ。NC加工機を駆使し、いかなるオーダー品にも正しく対応できる高精度な出来栄はまさに職人技。NODEAの窓の開発においても、初期段階から商品開発部門と一体となり、多事業に絡む豊富な知識と技術で、開発リードタイムの短縮に大きく貢献した。試作と改良を重ね、国際的に権威のあるデザイン賞「レッドドット・デザイン賞」を受賞する革新的な製品を完成させたことは大きな誇りだ。「図面さえあれば、何でも作れる」伊吹工場の匠たちは、そう胸を張る。多様な素材に対応できる高度な技術を持つだけでなく、図面を読み解き、製品を形にすることができる人財が揃っていることが、伊吹工場の大きな強み。他の工場では、ラインで大量生産を行うことが主流だが、伊吹工場では、一品一様の製品を、技術者の手で作り上げていく。そこには、まさに「ものづくり」の原点とも言える、熱い情熱が息づいている。



NC加工機をはじめとした汎用技術



高い要求品質に答える匠たち

環境

廃プラスチックに廃木材を融合させた循環型素材「レビア」の量産化
を開始した、サッシを製造する久居工場（三重県）の事例を紹介

久居工場では、再資源化が困難だった廃プラスチックに廃木材を融合させた循環型素材「レビア」の量産化ができる体制をつくりあげた。

増え続ける廃プラスチックは世界的な問題となっており、その数が世界で2番目に多い日本では対策は喫緊の課題となっている。そこで、LIXILでは再資源化が困難な廃プラスチックを活用する技術を確認し、循環型素材の「revia（レビア）」を開発した。

そして、量産化するために、長年サッシの生産を行い、高度な樹脂押出技術を有している久居工場内で内製化に挑んだ。融点の異なる廃プラスチックが原料のため、原料の状態にばらつきが生じる。一定の品質を保つために、粉碎の条件や配合に苦慮した。また、通常の樹脂押し出し工程とは異なるやり方を用いて、成型方法を組み上げ3年間の準備を行い内製化を実現した。2025年3月28日に三重県津市とパートナーシップ協定を結び、今後は市内で回収された廃プラスチックを原料とし地産地消としてreviaの生産を行っていく。



エンゲージメント

「魅せる工場」活動から、製販協働活動へ！！
営業と協働し、従業員とお客さまから愛される魅力ある工場を目指す水栓金具を製造する彦根工場(滋賀県)の事例を紹介

彦根工場では、従業員やお客さまから愛される工場への変革を目指し、2022年9月から工場見学チーム「魅せる工場」を立ち上げた。まずは、自分の工場のことを知るために工場の全従業員向け工場見学を実施。今まで自分の工程しか知らなかった従業員が、前後工程の繋がりや他工程の苦勞、仕事の重要性など気づきを感じてもらえた。2023年頃からは、お客さまを迎えるための準備を近隣の営業所である京滋支社と協働でスタートし、工場開催としては初となる「パブリックキャラバン」を開催。工場内にショールームを設置し、工場見学を目玉として100名超のお客さまを動員。2024年9月には営業と彦根市役所を訪問。これをきっかけに地元施設ヘレーザープリンターで「ひこにゃん」を印字した水栓金具の営業を行ったり、小学校への出前授業でLIXILの環境の取り組みや彦根工場の3Dプリンター技術を活用した「オリジナル水栓」のデザイン募集を子どもたちに行うなど、支社と一体になり、LIXILのモノづくり力と会社の魅力を伝えた。



お客さまと関わる機会ができ、日々魅せ方を試行錯誤しながら、改善する楽しさやお客さまに喜んでもらえることでやりがいを感じる。今後も、工場見学を日々アップデートしながら従業員が仕事に誇りを持ち、LIXILのファンを増やすことのできる工場づくりを目指していく。



水まわり・タイル100周年イベント(栃木営業所主催)で出展したオリジナル水栓

LIXILを支える工場のエキスパート

対話を大切にしながら、一人ひとりの成長につながる教育プログラムを考える
LWT Japan トイレ・タイル事業部 トイレ・タイル製造部 榎戸工場 設備課
大野祥太郎さん

大野は、設備課の業務と並行して、2022年から榎戸工場として力を入れている「新人研修改善プロジェクト」に約2年半携わる。榎戸工場は、衛生陶器の原料調合から成形、検査までを担う一貫工場であり、近隣工場や品質部門からも新人が学びに来る。しかし、プロジェクト発足前は受講者にとって期待に反する研修になっていた。プロジェクト発足後は「受講者がスムーズに配属先に入るための研修にする」を目的に掲げ、受講者に応じたプログラム内容へ変更した。以前と比べて受講者の満足度が向上し、従業員エンゲージメント向上にもつながっている。



昨年度の1年間はプロジェクトリーダーを務めた。一人ひとりに合わせたプログラムを組み合わせるだけでなく、受講者の不安を取り除く機会として対話を重視した。また、受け入れる側のメンバーとも研修目的を共有し、目的に沿った研修内容にするためのすり合わせも行った。対話には時間がかかるが、対話の中で受講者自身が気付くこともあり、本人が納得して取り組むことで満足していく結果につながるという。プロジェクトに携わり、受講者から喜びの声をもらおうとやりがいを実感すると同時に、マネージャーの視点で見られるようになった学びも大きいと感じている。今後も組織を導くための能力と考え方を培って、新時代のLIXILのリーダーとして活躍を期待する。



◆大野さんの紹介は、[こちらの](#)webサイトでも紹介されています。ぜひご覧ください。

参考情報

LIXILは、国内では、北海道から沖縄まで34拠点の工場を展開し、日本中に水まわり製品、建材製品をお届けしています。



●LIXILの生産拠点について

<https://www.lixil.co.jp/corporate/recruit/about/workplace/>

●「つくる、つなぐ、とどける」について

現場の第一線で事業活動を支えている工場や開発・設計担当者や工事やメンテナンスを担う人びと、ショールームをはじめとした日々お客さまと接する際の大切にしている想いなどを紹介しています。<https://www.lixil.co.jp/corporate/brand/employee/>